

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101843	
法人名	(株)ケアあおもり てるてるぼうず	
事業所名	グループホーム てるてるぼうず	
所在地	青森市高田字川瀬334-5	
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会	
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号	
訪問調査日	平成29年11月3日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と交流する場があり、ホームの行事にもボランティアとして参加して下さったり、地域の行事にも案内をもらい、ホームからも参加させてもらっています。 ・入居者様個々の「気持ち」を大切に、その気持ちに寄り添うケアを全スタッフが心がけています。 ・今年の抱負をスタッフ個々に掲げ、それぞれのスキルアップを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム名の「てるてるぼうず」は、心が晴れるように、利用者の心が穏やかになるようにとの願いが込められている。 毎年、全職員がその年の抱負を掲げ、それぞれがスキルアップを図り、質の高いサービスを提供できるように努めている。 職員は利用者個々の気持ちを大切に、利用者へ寄り添うケアの実践を心がけている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは理念の内容をきちんと理解しており、毎週月曜日の朝礼時、当日出勤のスタッフ全員で唱和している。	開設時、「地域、家庭、健康」をキーワードに、全職員で検討し、理念を作成している。職員は毎週月曜日の朝礼時、理念を唱和している他、機会ある毎に話題にし、共有している。また、毎年、職員個々に目標を設定し、理念の実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やホーム内の行事は、声をかけ合い、実施している。行事では、町内会や小学校とも交流を持ち、入居者様はとても楽しみにしている。	町内会活動に積極的に参加しており、小学校や子供獅子踊り、婦人会、ボランティア団体等と交流を図っている。最近「子供110番」として、地域の子供の安全見守りにも参加しており、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加している町内の婦人会の方や、近くの美容室等に来所した際に、認知症の方への関わり方について話しをし、理解をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。ホームでの入居者様の生活の様子や行事、予定等を報告し、話題は限定せずに意見を交換している。また、自己評価及び外部評価の結果も説明している。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、利用者の暮らしぶりやホーム行事、自己評価及び外部評価結果等を報告し、活発に意見交換を行っている。また、メンバーに防災訓練を見ていただき、出された意見をその後のホーム運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市等からの連絡には素早く対応している。また、ホームからの情報も、いち早く伝えるようにしている。	介護保険制度や生活保護申請、成年後見制度、除排雪に関する事等について、必要に応じて、行政や関係機関との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが身体拘束の内容等を理解しており、皆で過ごす時間を多く持つよう、心がけている。 音には素早く反応して対応するよう、全スタッフが心がけている。(センサーマットの使用も行っている。)	ホーム内外の研修等により、全職員で身体拘束に関する理解を深めており、利用者に対し、無意識のうちに不適切と思われる言葉遣いや対応を行うことがないように、注意し合っている。職員は、外出傾向の早目の察知に努めており、声がけをしたり、付き添い等を行い、工夫しながら、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて学ぶ機会を設けている。 虐待防止に向け、スタッフの心が健康であるように、また、ストレスを溜めないように配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通して理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら、口頭で説明している。 自立支援に関する事項、それに伴うリスクに関しても、十分な説明と同意を得て、契約を結んでいただくように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。 面会時や電話連絡の際、不安や不満を聞き、要望はできる範囲で聞き入れている。	職員は、利用者と十分にコミュニケーションを図り、言動に注意を払いながら、意見等の把握に努めている。また、家族の面会時等に情報交換を行い、意見や要望の把握に努めており、職員間で情報を共有しながら、検討し、より良いホーム運営のために活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフが一對一で面談する時間を設けている。 月1回の管理者ミーティングの際に話し合い、反映させている。	朝の申し送り時やケアプラン作成時のカンファレンスの他、月1回、ユニットの管理者等で話し合う等、意見交換の場が設けられている。また、必要に応じて、代表者等につなげ、職員の意見を運営に反映できる仕組みを整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与は、人事考課を取り入れ、スタッフ個々の評価が反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場を設け、情報交換に努めている。地域ケア会議への参加も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に限らず、入居者様の訴えに対して傾聴するように努め、安心感を持ってもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に今までの生活状態や心身状態を聞き取り、問題となっている事や要望を明確にし、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のニーズを見極め、入居者様本位のサービスが受けられるよう考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや食器拭き、食事準備、洗濯物たたみ等を共に行うことで、双方向の関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や通院への同行、状態の変化等の連絡や相談を行い、協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時や電話等で、関係を継続していただいている。	入居時の聞き取りにより、これまで関わってきた人や馴染みの場所を把握している。また、「田んぼを見に行きたい」、「墓参りをしたい」、「町を見たい」等の利用者の言動にも注意を払い、日頃から、外出支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中心となるリビングにて、皆で過ごしていることが多い。 役割(野菜の下処理や洗濯物畳み等)を通して、孤立しないよう、支え合いながら過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話相談にて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通し、本人の要望等を確認するように努めている。 家族からの情報も得て、その人に合った支援を心がけている。	特にリラックスしている入浴時や利用者同士でテレビを見ている時等、思わず口走る思いや希望を本人本位で検討し、叶えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソンとなる家族からの情報、以前利用していた施設や病院からの情報等を、全スタッフで共有し、活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活のリズムを、全スタッフで把握できるように努め、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取りの他、家族の意向、カンファレンスで話し合った事を反映させ、介護計画を作成している。	日頃から気づきを職員間で話し合い、記録している。再アセスメントやモニタリングを担当者が集約し、カンファレンスにおいて検討の上、利用者や家族の意見を反映させた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況をチェックし、カンファレンスにて、スタッフ同士で共有し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様から要望があった際は、家族からの協力を得て、入居者様と電話での関わりを持っていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りや小学校の行事への参加の他、月1回、ボランティアが訪問し、昔話語りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の往診や外来受診を活用し、突発的な受診にも対応している。 本人及び家族の要望により、他の医師による診察を希望する場合にも対応している。	入居前からの医療機関に、継続して受診できるように支援しており、認知症専門医や歯科医の往診もある。初診時は家族に付き添っていただき、面会が往診や看護師の訪問時間帯と合った時は、質問や相談が行われることもあり、家族との情報共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診契約者は往診担当の看護師と、24時間体制での支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常生活の留意点等、適切な情報を提供している。 医師と相談しながら、早期退院に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時に、ホームでできる事、できない事を説明している。 家族の協力や理解を得るようにしている。	ホームの方針を明確にし、利用者や家族には入居時に説明している。また、医師から家族へ説明を行う等、連携を図り、随時、話し合いながら、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を取得したスタッフによる内部研修を通し、共有している。 町内の消防団の方の協力を得て、最新の技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、運営会議を通して、地域の方から協力が得られるよう、関係づくりを行っている。	避難訓練を定期的実施しており、避難誘導策も作成している。運営推進会議に合わせて訓練を実施することにより、多くの意見をいただき、婦人会の見守り協力体制も整備されている。また、災害時の備蓄についても、十分に配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の大先輩であると尊重し、話を傾聴しながら、優しい対応を心がけている。 守秘義務や個人情報の取り扱いについても配慮している。	言動を受け入れ、確認をしながら、利用者寄り添うケアに取り組んでいる。守秘義務やプライバシー保持については、研修等で理解を深め、具体例を挙げて注意喚起したり、個別に注意しながら、利用者のペースでケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通し、本人の思いや要望を聞き出せるように努めている。 食事のメニューを作成する時、食べたいもの等を聞き、自己決定できるような場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れのスケジュールはスタッフが決めているが、無理に勧めず、できる事、できない事、その他の精神状態にも配慮し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方は自由に着こなしをしていただき、介助の方は天候や行事等を考慮し、支援している。 定期的に美容・理容院の利用を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日三食、スタッフが同席し、音楽を流しながら食事を摂っている。 食事の準備や後片付けは、入居者様とスタッフ共に、協力しながら行っている。	利用者の好み等を把握し、献立は栄養士が作成しており、代替食、とろみ・刻み等の対応も行っている。また、職員も一緒に食事を摂り、さりげない介助と言葉がけに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量をチェックし、記入している。 栄養士による献立作りとなっており、季節の行事食等、味や見た目にも工夫を凝らしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 できる事は自分で行い、できない事は介助で行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄の訴え時には、安全を考慮し、スタッフ2名で行っている。 オムツ着用者の排泄チェック表を作成し、回数や量を記録している。	昼夜ともにオムツを使用していても、歩行訓練を行うことで、立位バランス、座位保持等につなげ、日中、トイレでの排泄が可能になる等、排泄パターンや習慣を活かしながら、身体能力に応じた自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂り入れた食事に配慮している。 排便の数や状態、量、水分を記録して、スタッフ間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、希望があれば、毎日入浴できる体制をとっている。	週2回とし、予め入浴順序予定表を掲示している。また、季節に応じて、シャワー浴や清拭を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の状態に合わせ、休息や臥床している。 また、本人の落ち着いた場所で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人記録等で薬剤情報カードを把握し、いつでも確認できるようにしている。 服薬内容も不明な点があれば、薬剤師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みや食器拭き等のお手伝いを、入居者様自らが進んで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に沿えるように努めている。 また、必要に応じて、家族にも協力をしてもらっている。	利用者の日々の言動に耳を傾け、「カツ丼食べたい」、「回転寿司に行きたい」等の希望も叶えられるよう、外出支援に取り組んでいる。また、外出行事の際は、事前に外出先の状況を確認している他、外食時は刻み用ハサミを持参する等、工夫しながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている入居者様もいる。 買い物時のお金の受け渡しは、見守りや声がけにて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、スムーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節を感じられる装飾を行っており、できる範囲で、入居者に手伝っていただいている。 2ユニット違う装飾であるため、入居者様はお互いの装飾も楽しみにしている。	ホールには、ダイニングテーブルやテレビ、ソファを配置し、ホール横には、鏡台や茶筆筒を置いた多目的活用の和室もあり、家庭的な雰囲気である。テレビ等の音量は、会話の妨げにならない程度であり、室温等は季節に応じて、エアコンや加湿器等で調節している。また、ハロウィン等、季節を感じる事ができる装飾がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファに座り、談話して過ごしたり、食卓を囲んで談話したり、様々な形でコミュニケーションが取られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品を居室に持ち込んでいただくよう、入居時から家族に働きかけており、自由に使用してもらうようにしている。	位牌や時計、愛読書等、愛用の物を居室に持ち込み、安全性を考慮の上、専用ボードを設置して、写真や作品を掲示している。また、防災加工をした暖簾により、プライバシーの保護にも努めており、居心地良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を掲げたり、暖簾を下げて、自分の居室だと理解してもらうように心がけている。		